

会議名	第3回港区みんなとオレンジカフェ事業業務委託事業候補者選考委員会
開催日時	令和5年12月25日（月曜日）午前9時40分から午前11時まで
開催場所	港区役所911会議室
委員	保健福祉支援部長 山本 睦美（委員長） 高齢者支援課長 白石 直也（副委員長） 麻布地区総合支所区民課長 川口 薫（委員） 介護保険課長 安達 佳子（委員） みなと保健所健康推進課長 二宮 博文（委員）
事務局	高齢者支援課高齢者相談支援係
会議次第	1 開会 2 第二次審査実施概要について 3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について 5 閉会
配付資料	[席上配付] 次第 資料1 第二次審査実施概要 資料2 第二次審査採点基準表 資料3 第一次審査・第二次審査集計結果（※採点終了後、配布） 資料4 第1回選考委員会議事録概要 資料5 第2回選考委員会議事録概要  参考資料1 第一次審査集計結果 参考資料2 事業候補者選考基準 参考資料3 仕様書
会議の内容	
事務局	1 開会 （委員長より開会の挨拶）  2 第二次審査実施概要について （事務局より資料1、2、3について説明）  3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 （A事業者による説明）
事務局	質問をお願いします。

A委員	<p>本事業を運営していくにあたって、多くのスタッフが従事していただけの提案となっていますが、職員育成について詳しい説明をお願いいたします。</p>
A事業者	<p>対面援助事業において、人は財産であると考えております。人を援助する事業に携わるにあたっては、事例の勉強や知識の習得、自身の心身のケアが必要です。</p> <p>また、自身の心身が平静でないと人に対しての援助は困難と考えております。ミーティングでスタッフ間の風通しを良くして、チームで取り組むことを考えて育成していきたいと思っております。</p>
A委員	<p>個人情報の取り扱いについてどのように考えているか教えてください。</p>
A事業者	<p>参加者から頂いた情報の取り扱いについて、スタッフには守秘義務の厳守を厳しく指導しています。ボランティアにも養成講座や事業の中で繰り返し伝えていきます。情報は事務所において一元管理を行い、施錠した場所に保管しています。</p>
A委員	<p>参加者数が少ないといった課題を認識されているとお伺いしましたが、現時点において具体的な改善案があれば教えてください。</p>
A事業者	<p>信頼できる人、顔見知りの人と一緒に参加できることが、事業参加のハードルを大きく下げます。医療機関や専門相談機関に直接説明をして必要な人に案内してもらうこと、また、ボランティアや参加者からの口コミで広げていきたいと考えています。広報については区や事業所のホームページ、SNSを活用したいと考えています。</p>
B委員	<p>認知症本人や介護家族へのアンケート調査を大学生及び大学院生と連携して実施するとご提案いただきましたが、学校等との繋がりがあれば教えてください。</p>
A事業者	<p>大学や大学院と連携しており、見学や実習の受け入れを行っています。学生と連携して分析を行い、事業へ反映させていきます。</p>
B委員	<p>若年性認知症の方が参加しやすい工夫や参加者を増やす案を教えてください。</p>

A事業者	<p>まずはスタッフが若年性認知症の知識を身につけ、理解することが大切であると考えています。現在若年性認知症の専門機関と連携しており、講演会やフォーラムを共催する企画がありますが、今後は本人が語る場の創出へ発展させていきたいと考えています。</p> <p>また、若年性認知症と高齢者の認知症ではその後の人生の考え方に違いがあるため、これからの人生を前向きに捉える支援を専門医と連携して実施していきます。</p>
B委員	<p>提案において、必ず達成したいことや強みを教えてください。</p>
A事業者	<p>認知症に対する正しい知識や認識を広めることで、認知症の方や介護する家族に対して当たり前のこととして接することができたり、街中で認知症の方と出会ったときに適切な対応が取れるように、地域力を高めていきたいです。</p> <p>また、人材育成の考え方でも触れましたが、人を大事にしていきたいと考えています。こうした活動は地道ですぐに結果が表れるものではありませんが、積み重ねが重要だと認識しています。人と人とのつながりを大切にして活動していきます。</p>
C委員	<p>提案の中で傾聴が大事であると伺いましたが、そのあり方は専門職毎に異なると思います。傾聴についてどのように注力しているのか教えてください。</p>
A事業者	<p>本事業において、話を聞くということが一番大事なことでないと認識しています。何を語ろうとしているのか、何に困っているのか、スタッフ側が予備知識を持っていながらそれを前面に出さずに、相手のペースに沿って話を聞いていくことが大切です。心理職による研修やロールプレイを実施して、スタッフ全員の能力を高めていきたいと考えています。</p>
C委員	<p>地域に定着するというのは難しいことではありますが、今後どのように定着していこうと考えているのか、意気込みを教えてください。</p>
A事業者	<p>地域に定着させることは本当に時間がかかることであり、地道に取り組まなければならないと考えています。住民であるボランティアや民生委員、町会・自治会の方など地域住民に地道に声を掛け、ゆっくり一つずつ地域との繋がりを作っていきたいと思っています。</p>

D委員	コロナ禍での活動において苦勞したこと、工夫したことを教えてください。
A事業者	活動休止中は、訪問電話で参加者のフォローを行いました。再開した時も「外に出るのが怖い」という意見が寄せられ参加者が少ない時期もありましたが、開催しているということが大切だと考え、継続して開催しました。
D委員	多くの専門職を活用して運営されていますが、その継続的な雇用についてどのように取り組んでいるか教えてください。
A事業者	ほとんどのスタッフが事業所や大学、知り合いの専門職、在籍する職員からの紹介で採用し、定着している状況です。事業に従事する職員は、認知症や介護する家族に対して思いがある人を選んでいきます。他の仕事をしているため参加日数が少ない職員もいますが、継続して活動するということを大切にしています。
D委員	提案の中で連携している団体に寺院があるとありましたが、どのような繋がりがあるのか教えてください。
A事業者	港区にはコンビニよりもたくさんお寺があると言われていています。法人の理事の中に寺院関係者がいることや、傾聴ボランティアで活動されている住職さんや介護家族の会を運営されている住職さんがカフェに参加していただいたことで繋がり、お寺でカフェを開催したこともあります。
E委員	本人ミーティング事業について、どのように本人同士の交流の場を創造していく見込みでしょうか。
A事業者	本人ミーティングの参加者は認知症初期の方が中心になると思います。現在カフェに参加されている方の他に介護事業所や高齢者相談センターに紹介していただいて、認知症当事者が3名集まれば開催できると考えています。最初は堅い雰囲気ではなく、日常の話や困りごとといった話から始めて、交流の場へと発展させていきたいです。そのために、中心となる認知症当事者の方を早く見つけて広げていきたいです。

E委員	<p>本事業のサテライト版を考えていらっしゃるという旨を伺いました。どのように開催していくか、今後の展望を教えてください。</p>
A事業者	<p>場所については、寺院や商店街の空きスペース、薬局の待合スペース、みなと認知症サポート店、街の電気屋さん等で始めていきたいです。電気屋は高齢者がよく訪れるスポットです。3人集まるスペースが確保できれば開催できるため、好事例を作っていきたいです。</p>
委員長	<p>4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について (事務局より資料3について説明)</p> <p>事務局から集計結果について説明をお願いします。</p>
事務局	<p>第一次審査967点、第二次審査は581点、合計点は1548点です。</p>
委員長	<p>審査にあたり、評価したポイントなど、各委員から講評をお願いします。</p>
A委員	<p>質疑応答への対応から、事業への理解度は高いと評価しています。参加者増は具体性に欠けるため可もなく不可もなくといった評価です。総じて、及第点は超えていると評価しました。</p>
B委員	<p>プレゼンテーションは物足りないと感じましたが、質疑応答にしっかりと対応できていたため、一次審査より高評価としました。教育機関や寺院との繋がり等区内団体との連携についても具体性が示されました。サテライト版カフェも新たな提案として評価しています。</p>
C委員	<p>傾聴について質問しましたが、ロールプレイ等で職員をしっかりと育成できていると感じました。地域との連携についても、難しさを感じながらも意識できていました。</p> <p>薬局や地域の電気屋等で開催を検討している点も評価できましたが抜本的な手法はこれからと感じたため、平均的な評価としています。</p>
D委員	<p>若年性認知症に関するものを除き実現可能な提案が多く、評価できます。</p> <p>専門職の継続的な配置について、懸念点はありますが当面は問題ないと感じています。</p>

E委員	<p>一次審査より高く評価しています。どれも地道な取り組みではありますが、それ故に具体性、実現性のある提案であると感じました。サテライト版についても、3人程度からのスタートと無理なく堅実に考えていました。電気屋での開催は目の付け所が良いと感じ、地域に根差しているからこそその発想であると評価しました。総じて取組力、業務理解、発展性を高く評価しています。</p> <p>一方で、専門職の継続的な配置については、人伝であることは懸念材料ですが、思いの強さを感じたため問題ないと判断しました。</p>
委員長	<p>他の委員の意見を踏まえて、自身の採点を変更する方はいらっしゃいますか。</p> <p>(委員一同、異議なし)</p>
委員長	<p>A事業者を事業候補者として選定してよろしいでしょうか。</p> <p>(委員一同、異議なし)</p>
委員長	<p>それでは、A事業者を事業候補者として選定します。</p> <p>5 閉会 (事務連絡、委員長より閉会の挨拶)</p>